ものは階級意識をもつた事を知る者は、此れが決して軽視出来ないものである事を忘れぬであらう。

有島氏の私有財産[illegible]抛棄の事件、

今春に於ける思想界の重要問題を一人で背負つたやうな有島氏は、又有財産五十万円？を放棄する旨を発表し得た。それは氏が経営する北海道の農場を無償で小作人に譲るといふ事で、そして自からは、額に汗する一個のプロレタリアとして[illegible]立つさうである。氏は此の気持を雑誌「我等」の三月号に寄せて「四十年間の私の錯りが除つて、全く新生涯が春先きに遇ひ得た眼を開くやうな悦ばしい気持でゐる事が出来る」と言つてゐる。

此の事件に對して日本のサンディカリストは、「ちくらならブルジヨアの御道楽だ」と嘲り、米国のシカゴトリビユーン紙などが、「四十年間と考へたとは日本人には珍らしい気の長さ」などゝ皮肉つてゐる。

さあれ、同問題が財産の私有權と事実上の、否定的行為をした点に於て、非常に意義深いと思はれる。

過激社会運動取締法案問題

近来本邦社会主義者が外国の同志と気脈を通じて、日本の秩序を危くする各種の宣伝運動に携りつゝあるは、まことに慨はしい事である[illegible]従来之を取締る上に適当なる法律を缺いてゐる為に往々刑が軽きに過ぐるの憾みがあり、斯くては日本社会の為甚だ危険であるから、当局に於て深甚考究の結果茲に本法案を提出するに至つた次第である（二月十一日貴族院に於ける